

## 令和2年度第2回教育課程編成委員会議事録

- 【日時】令和2年12月3日(木) 10:00~11:00
- 【場所】こころ医療福祉専門学校壱岐校
- 【委員】壱岐市社会福祉協議会副会長 品川 洋毅  
壱岐市立老人ホーム所長 吉田 博之  
社会福祉法人博愛会特別養護老人ホームハッピーヒルズ(幸せの丘)  
施設長 永田 信弘
- 【事務局】中野 勝, 田島 百合子, 川口 進一朗, 藤 玲子
- 【議題】1 令和3年度介護福祉科の教育課程について  
2 就職合同面談会の報告  
3 介護福祉士国家試験への取り組みについて  
4 第1回教育課程編成委員会以降の行事及び予定  
5 今後の課題  
介護現場が求める介護人材とは  
コロナ感染症拡大予防について

### 1 令和3年度介護福祉科の教育課程について

田島：人間関係とコミュニケーション科目の時間数が30時間から60時間に増えた。

また、求められる介護福祉士像にも変更点がある。

この求められる人材像は国家試験に出題されることもある。

吉田：求められる介護福祉士像に挙げられている項目数が減っているようだが、何の項目が減ったのか。

田島：減ったというより、他の項目と統合されている。

永田：コミュニケーション能力については、うちの職員も低い者が増えているように感じる。職員間のトラブルが起こることもある。非常に重要な課題だと感じている。

中野：永田委員のご指摘の通り、卒業予定者のレポートにも実習中にコミュニケーションの必要性を痛切に感じた旨の記述があった。コミュニケーションに苦手意識を持つ学生もいるが、自分で気が付いたことで、今後人とのかかわり方を見直し、学ぶきっかけになればと期待している。

吉田：医療の現場では、看護師が大学制になって実習の時間数が減り、経験が少ない状態でいきなり現場に出るようになったことで、現場での人材育成に時間がかかるようになり、専門学校卒業生の方が即戦力になると感じていた。現

場を知るということは学生にとって貴重な学びの機会だと考えている。その中でコミュニケーションの必要性に気付き、学校生活に戻ってからも意識し続けるだけでも格段にコミュニケーション能力は伸びると思う。施設側も学生自身の気付きにつながるような指導を意識していきたい。

## 2 就職合同面談会の報告

田島概要報告。

今年度の卒業予定者のうち、壱岐での就職を希望しているものは4名。合同面談会で興味を持った施設にそれぞれ就職活動を行い、全員の就職先が決定した。ご参加いただいた各施設に感謝申し上げます。

今年度は1年生も面談会に参加させた。早い段階から就職への動機づけを行うとともに、実習では限られた数の施設しか知ることができないため、多様な施設を知るいい機会になればと思つての取り組みである。

今後実習等でお世話になるため、温かく見守っていただければ幸いである。

品川：卒業予定の学生とじっくり話す機会が持てる面談会は施設側としても貴重な機会である。就職希望者が何を判断基準として就職活動を行っているのか、実際の反応を見ることで施設自体のあり方を見直す機会にもなっているように感じている。是非今後も継続して実施してほしい。

## 3 介護福祉士国家試験への取り組みについて

田島：1月30日の国家試験は2年生全員が受験する予定。定期的に模擬試験を行い、点数も確実に上がってきている。12日、社会人と合同で模擬試験を予定している。授業時間外にも放課後や冬休みにも学習時間を設けて自主的に国家試験対策に取り組んでいる。

今後の感染拡大状況によっては試験の実施方法にも何らかの変更がある可能性がある。状況に注意を払いつつ、最大限の感染防止対策をして国家試験に臨みたい。

中野：留学生にも合格に手が届きそうな学生が数名いる。現在始業前やアルバイトが休みの日の放課後に熱心に自己学習に取り組んでいる。その姿に日本人学生もよい影響を受けている。

吉田：今まで留学生が合格したことは？

田島：壱岐校ではまだ留学生の合格者は出ていない。着実に模擬試験の点数が上がっているので、教員も一丸となって努力していきたい。

## 4 第1回教育課程編成委員会以降の行事及び予定

第一段階実習は校内実習に変更した。

国家試験は福岡で受験する予定だが、会場は未定。船、宿泊先の予約は完了している。

第Ⅱ段階実習は国試との兼ね合いで時期を2週間遅らせようと検討している。島外に出る2年生と寮で共同生活をしているため、2週間の経過観察期間を置くための措置である。

実習指導者養成講習会を2月～3月に予定している。(12月中旬に案内文書発送予定)

以前ご案内した国試模試(社会人)には10名あまりの申し込みがあった。今回は2年生も同時に模擬試験を受ける予定。試験後解説を行う。

感染症予防に十分配慮した上で実施する。

12月13日の第3期入試は2名受験予定。

3月16日卒業式(予定)。

品川：壱岐市社会福祉協議会では先日ボランティアの集いを行った。介護弱者災害弱者が増加しているため、その対策に関する研修だった。今年度はコロナの関係でまちづくり支援員を中心に参加者を絞ったが、島内施設に案内をすればよかった。次回は是非専門学校にもご参加いただきたい。

## 5 今後の課題

介護現場が求める人材について

品川：若い介護従事者が非常に少ない。日本人だけでは賅いきれなくなっているように感じる。外国人人材育成は大きな問題。

利用者が高齢化。ケアする人が足りない。認知症の人が急増する。こころのケア等、広範な知識・技能を持った人材が必要になると思っている。

吉田：広報に更に力を入れてほしい。学校・生徒への働きかけ、保護者への働きかけ。学生は将来の方針に迷っている状況なので、選択肢を投げかけてほしい。介護が選択肢に上がっていない、介護に興味を持つ機会がなかった学生が介護に目を向けるきっかけを作ることが大切。とりあえず資格だけでも取る、介護をやってみるといふ学生が一人でも増えれば、そこから自分の仕事として選択してくれる人材が出てくると思っている。

一緒に仕事をしていて、ちょっとしたことに気が付く人間が欲しいと思う。技術はともかく、寒くなったから上着を出しておこうとか、ごみが落ちているから拾うということに気が付くかどうか。そうでない者ばかりだと、気が付く職員の負担が大きくなる。目を配れる人材を増やしてほしい。技術的なことは学校で十分学んでいると思う。

自分は自分の仕事をきちんとやりさえすればいいと思っている職員が多い。多職種が一緒に働く現場では長の指示のもと連携をとる必要があるが、自分の職分だけにこだわり、周囲が見えない、耳を貸さないものがある。自分の仕事さえすればいいわけではない。

永田：自分の考え中心で気持ちを表に出し、相手がどう思うか考えることができない。職員同士の人間関係ができていないと感じることが多い。

実習や地域の活動への参加を通して、人間関係を構築する手段を持たせてほしい。

川口：ご指摘の通り、職員間のコミュニケーション、業務の調整の重要性は実感している。

人と人が接する職業なので、人としてしっかりした人材を育てていきたい

永田：入試の動向は

中野：就職試験の解禁後すぐに高校を訪問し、学生募集のお願いをした。

社会人の学びなおし教育等にも力を入れたいと考えている。

委託訓練の募集も1月に開始される。

学費無料、失業保険が2年間支給される。制度を知らない方が多いので広報にも力を入れていきたい。

施設ではこういう学生は受け入れられない、等要望があればぜひいつでもお知らせいただきたい。

中野：コロナの関係で生活範囲が狭まっているが、ワクチンの開発、英国での承認で希望が見えてきた。生活の制限が少なくなれば、様々な経験を積ませていきたい。

吉田：保険課を通じて行政情報の一環としてケーブルテレビで広報できるのではないだろうか。

市としては繰り返し同じことを放送している状況なので新しい情報がほしい部分もある。ぜひ相談してほしい。学校を知らない人も多いのでぜひ目に触れる機会を増やしてほしい。

感染症拡大防止

中野：各施設での対応を教えてください。

学校では朝昼夕の消毒

マスクと消毒をこまめにするよう指示している

吉田：定時に放送で換気をするよう指示を行っている

実習は党内で発生がなければ通常通りでよいのではと考えている。

こっそり、黙って…という雰囲気を作らないようにしている。黙って島外に出

て後から感染が分かるのが一番困るので、事前に報告をきちんとするよう指導している。

永田：3密の回避，マスク，消毒を徹底すればある程度感染は抑制できる。決められたことを粛々で行う必要がある。

中野：学校だよりを発行し，担任に指導させている。ただ読み上げるのではなく，担任が自分の言葉で説明をしてほしいとお願いしている。あくまでも学級は担任がまとめるという理念。

継続と我慢が必要。学校では全員が毎日検温し，体調管理を徹底している。実習などぜひご協力をお願いしたい。

コロナウイルス感染症に関しても施設・学校ともに対応を徹底し，コロナと共存する体制づくりに力を入れている。

感染症の影響によって世界規模で人の生活が変わる時代が来るとは思いもよらなかった。来年度は感染症対策に力を入れながらも，学生にとってかけがえのない2年間を充実させ，確かな技術と介護の専門職としての高い倫理性を備えた人材を育成できる体制を構築し直したい。